

授業作り	重点	○通常学級における特別支援教育を推進し、ユニバーサルデザイン化や個別最適化を進めることで、どの児童にも分かりやすい授業を展開する。
環境作り		○特別活動を活性化し、自分の考えをもち、伝え、受け止め、折り合いを付ける実践を重ね、児童が主体的に活動する風土を醸成する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・学習用具の準備や片付けなど、基本的な学習習慣を身に付けることができるようにする。 ・集中して学習に取り組むことができる時間が長くなるようにする。 ・平仮名、片仮名の読み書きについては、文字の形や筆順に注意して指導し、宿題や朝学習を活用して繰り返し練習をしていく。 ・算数では、ブロックなどを活用して具体物操作を通して量について身に付ける必要がある。 ・学習全般において個人差があるため、個に応じた指導内容で取り組んでいく必要がある。	①学習用具の使い方について繰り返し指導 ②ミニボードで1時間の活動内容を提示 ③指示は短く分かりやすい言葉で行う。 ④家庭学習や朝学習で多くの言葉に触れる機会をもつ。 ⑤算数の計算練習等は、既習内容を繰り返し指導して知識の定着を図る。
2 学 年		・文字の読み書きについては、繰り返し練習をしている。音読では、教科書を中心に様々な文章を読むようにしている。 ・言葉で表現する中で活用できるように指導が必要である。 ・繰り返し上がりや繰り返し下がりのある計算については、習熟が不十分なため、復習が必要である。 ・計算力に個人差があるため、計算経験を積み重ねることが必要である。 ・時計、「何番」と「何番目」等、生活の中で慣れる必要がある。	①音読を欠かさず行い、発音に慣れ語彙を増やす。 ②短学活でのスピーチ活動や各教科で話型を使って考えを表現する。 ③半具体物操作を取り入れて数量感覚を養いながら、繰り返し計算練習に取り組む。 ④加減計算プリントを毎日必ず行う。 ⑤数を唱えたり、目盛りを読んだりする算数的活動を行い、数感覚を養う。
3 学 年	昨年度学力定着度調査では、算数の全ての達成率が90%と、区を上回っている。計画的な読書や、話し合い活動を通して、語彙を豊かにした。学力定着度調査の領域別正答率において「話すこと・聞くこと」や「読むこと」「書くこと」の領域で区の平均値を上回っている。	・人の話を集中して聞くことができる力が必要である。 ・計算等の練習問題と具体物との関わりの中で繰り返し考え、数量感覚について高めることが必要である。また、授業に操作活動や練習問題を取り入れることで、文章題を正確に把握できる力をつける必要がある。	①タブレット端末の活用を発表、調べ学習、個別最適な学び等充実させる。 ②具体物から考える活動や、授業における視覚化、焦点化等の工夫をしている。
4 学 年	昨年度学力定着度調査では、国語・算数共に区・全国の平均正答率を上回っている。領域別では、「書くこと」「読むこと」それぞれで区、全国の平均正答率を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」については、区を8.2ポイント、全国を6.8ポイントとこちらは大きく下回っている。このことから、「話すこと、聞くこと」について課題がある。	・意見交流の機会を多く取り入れ、互いに感じたことを、互いに伝え合うことができる。 ・日常的に辞書を引くことを習慣付けることが必要である。 ・タブレット端末の活用をさらに充実させ、協働的な学びに行い、思考力や表現力を高めることが必要である。 ・朝学習の時間を有効活用することを定着させ、個に応じた習熟を促すことが必要である。	①日常的に辞書を引く活動を行う。 ②タブレット端末の活用を発表、調べ学習、個別最適な学び等充実させる。 ③自分の書いた文章を読み返すよう促す。友達からの助言を受けられるようペア・グループでの活動を活性化する。

5 学 年	昨年度学力定着度調査では、国語は、全国、区平均正答率より上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」については、全国・区を上回ってはいるが、他の領域と比べると、さらに向上の余地がある。算数では、全国では平均正答率が上回っているが、区平均正答率は下回っている。領域別にみると、「測定」について正答率を下回り、課題があることが分かる。また、正答率分布や四分位分布から学力の差が大きいことが分かる。	・話す人の顔を見ることがや話し手を意識できるような言葉かけが必要である。 ・既習漢字、言葉を日常的に使うことができるような取り組みが必要である。 ・適宜計算方法を復習し、繰り返し練習問題に取り組むことが必要である。 ・学習と学習のつながりを意識させる取り組みが必要である。 ・タブレット端末の活用をさらに充実させ、協働的な学びに生かし、思考力や表現力を高めることが必要である。	①タブレット端末の活用を発表、調べ学習、個別最適な学び等充実させる。 ②学習内容について、学年ごとに学習してきたことと結び付けるよう指導する。 ③日記の課題で文章力と日常的な漢字の活用を、短歌や俳句、川柳等で身の回りの出来事や季節などに関する言葉に触れる。
6 学 年	昨年度新宿区学力定着度調査では、国語は、全国値、区平均正答率より下回っている。「読むこと」は上回っているが、「書くこと」は大きく下回っているため、まだ十分な力が身に付いていない。算数では、全国値は上回っているものの、区平均正答率は下回っている。領域別に見ると、「数と計算」の問題において区平均正答率が大きく下回っているため、基礎・基本の定着を要する。	・既習事項、言葉を日常的に使うことができるような取り組みが必要である。 ・文章を書くことへの抵抗が和らげること、文章構成を考え書くことができるような取り組みが必要である。 ・算数における文章題の読み取り、図や表、数直線を使った考え方等、指導の継続が必要である。 ・協働的な学びに生かしながら、思考力や表現力を高めていくことが必要である。	①漢字ドリルを使って新出漢字の学習をし、タブレット端末を使って繰り返し学習する。 ②読書活動後の短い感想は継続する。 ③デジタルドリルやプリント等を使って基礎・基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。 ④タブレット端末を活用し自分の考えを表現し、友達の考えと比較しながら、より深い思考力を育んでいく。
特 別 支 援			